

## 2019年度香川大学特待生(学業)学長表彰

7月29日、学業成績及び人物共に優れていると認められた今年度の特待生に対する学長表彰が、OLIVE SQUAREにおいて行われました。今年度は、学部学生40名、大学院学生14名の計54名が選ばれ、特待生には、当該年度の後期分の授業料が全額免除されるとともに、学長から表彰状が授与されました。

表彰式には、役職員や各学部・研究科の教員も臨席。学長からは、これまでの努力と成果を称えるとともに、今後も引き続き勉学に励むことを期待している旨の祝辞が述べられました。



## 海の中を覗いてみよう！海と日本 PROJECT

8月2日、瀬戸内圏研究センターは庵治マリンステーションにおいて高校生を対象に「海の中を覗いてみよう！海と日本 PROJECT」を開催。我が国は海洋大国でありながら学校で海について学習する機会が非常に少ないのが現状です。本プロジェクトには高校生に身近な海について学んでもらい、海の面白さを体感してもらいたいという思いが込められています。高校生と引率教員を併せた計29名の参加者の中には、昨年も参加していた高校生や、県外から足を運んでくれた高校生もおり、活気に満ちあふれた一日でした。参加者は調査船カラヌスIIIに乗船し、志度湾へ海洋観測に出かけました。センター関連教員の山口先生(農学部)、岸本船長、香川大学農学部学生のサポートのもと、プランクトン

採集や海底の生物観察をはじめとした海洋観測を体験。施設内では瀬戸内圏研究センターの多田センター長と一見副センター長の講義により、海の食物連鎖や海洋環境、陸上生態系との違いについて学んだのち、プランクトンの顕微鏡観察が実施されました。時折感嘆の声も上がり、レンズ越しの微細な生物をカメラに納めようとピントを合わせているその瞳は、真剣そのものでした。高校生たちは、講義により海への理解を深めるとともに、普段目にするのではない海の中に生息する生物、またこれらを取り巻く環境を目の当たりにすることにより、海という未知の世界に一步踏み込んだようです。



海底堆積物の採取

## 香川地域活性化グローバル人材育成プログラム第11期派遣留学生壮行会

8月6日、幸町キャンパスで香川地域人材育成コース協議会主催の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム香川地域活性化グローバル人材育成プログラム第11期派遣留学生壮行会」が開催されました。独立行政法人日本学生支援機構文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトの萬谷宏之審議役、浜田恵造協議会会長、寛善行学長をはじめ、本プログラムを支援いただいている地域企業、県内の高等教育機関等約50名が参加しました。今回第11期派遣留学生として採用された4名は、支援企業や、過去にトビタテ！留学 JAPAN に採用されて留学した先輩など

から激励を受けるとともに、留学で何を学び香川に貢献するかについて決意表明することで、地域とのつながりを深めることができました。また、派遣留学生が留学や県内インターンシップを通して、香川と世界をつなぐ役割を果たすことを期待して「Student Ambassador of Kagawa」の称号が、協議会会長である浜田恵造香川県知事から付与され、帰国後も留学で培われた国際的な視野と行動力で、香川の未来を切り拓いてくれることを期待するとともに、無限の可能性を秘めた若き香川のグローバル・リーダーを参加者全員で応援しました。



香川大学では今後、全学でデザイン思考教育を取り入れていきます。ところで「デザイン」とは何でしょう？ そんな疑問に、創造工学部創造工学科造形・メディアデザインコース12人の先生方に、「デザイン」と「お一人ずつ決められたテーマ」をかけて、語っていただきました。(11回目/12シリーズ)

## DESIGN×VISION

創造工学部創造工学科造形・メディアデザインコース准教授

石塚昭彦



経済産業省が2018年5月に「デザイン経営」を宣言しました。「デザイン経営」とは、デザインを重要な経営資源として活用し、ブランド力とイノベーション力を向上させる経営の姿です。アップル、ダイソンなど世界の有力企業がデザインを経営戦略の中心に据えて実践・成功させているのは周知のとおりですが、あらゆる産業でこの経営が注目されています。そんな経営環境の中、日本の多くの経営者がデザインを有効な経営手段と認識せずにいる現状に、経産省がメスを入れたと理解しています。

一方で、数年前前から「デザイン思考」の企業導入がブーム的な動きを見せています。日本企業にはビジネス変革が必要と言われている中、デザイン思考に期待する企業が相次いでいます。事実、デザイン思考を身につけた企業特に中小企業を中心に、売上げ・利益率への効果が実証されています。しかし期待ほどの成果に至らず、デザイン思考が定着していないケースも少なくありません。デザイン思考はデザイン経営の推進に必要不可欠ではありませんが、その推進力は強力だと思っています。デザイン思考を身に付けた企業は、デザイン経営に近づきやすいはずですが、では、デザイン思考が身につかない企業・経営者のどこに問題があるのでしょうか。デザイン思考をいち早く(富士通の)ビジネスツールとして活用し、顧客企業の新規ビジネス企画やイノベーション活動に多く従事してきたデザイナー(私)からの私見ですが、デザ

インに馴染みのない人の多くは「ビジョン(Vision)」を描くことに不慣れ、または描くことができないことに問題があると思っています。一般的に日本企業に普及・活用されている「デザイン思考」には5つのプロセスがあります。その中の一つ「問題定義」は「社会や人々の本質的なニーズは何か」を現状理解してから「問い」を探して課題に落とし込むプロセスです。「問い」を探すことは「未来のありたい姿」と「現在の状態」との差分から問題を見つけることです。この「未来のありたい姿」こそが「ビジョン」であり、それを描けなければ後のプロセスが機能しません。結果的にデザインは有効な経営手法にならないのです。

ある本に「ビジョンは崇高な理想でもなければ、鼓舞するための言葉でもない。実用的な手段である。」という言葉がありました。「ビジョン」を手段として発想手法の一つのプロセスとして活用することだと理解しました。そこでデザイナーが得意とする「バックキャスト」という発想手法にデザイン思考のプロセスを当てはめて、「ビジョン」起点のアプローチを構築しました。バックキャストとは、目標となる未来の状態を想定し、そこを起点に現在を振り返って何をすべきかを考える方法で、いわば未来からの発想法です。このアプローチを実ビジネスで実践したところ、それまでビジョンを描けなかった企業・経営者に目覚ましい効果があったため、富士通ではこれを基本アプローチとするデザインサービスを提供するようになりました。

「ビジョン」を描くことは高度なデザイン行為です。そして「良いビジョン」を描けるようになることは、「デザイン経営」を目指す企業にとって重要課題だと思います。「良いビジョン」には、人や組織を前進、成長させる力があります。この「良いビジョン」を描く力を養うには、ここ香川大学で学ぶのが最良の道だと思います。



# VOICE

## 社員の方と共に働き、責任あるポジションで一つの番組をOAする… 貴重な経験から、将来進みたい道が明確に

私はRNC西日本放送の報道部で毎週月曜から金曜の18時15分から放送される「RNC news every」という生放送番組の放送に、直接関わるアルバイトをしています。主な業務はフロアディレクターとVTRオペレーターです。

フロアディレクターは、スタジオに入ってアナウンサーの補佐をします。CM明けの10秒カウントや、事前に計画し構成していた時間と生放送が、何秒ずれているのかを放送中にアナウンサーに伝えます。正確にタイミング良く伝えられなければ、アナウンサーが話している途中で番組が終わるようなトラブルが起こることもあります。VTRオペレーターの主な業務は番組で使用するVTRの確認です。ラップタイムに間違いはないか、音声や映像にノイズや乱れがないかをチェックします。本番中はVTRを再生したり、天気予報用のカメラを動かしたりする業務を行っています。

その他、アルバイト専用ノートや業務マニュアルの作成があります。その日に起こったトラブル

やその対処方法をまとめるもので、アルバイト同士で情報を共有するために使っています。業務マニュアルは、先輩の香大生が考え作成しました。社員の方からも高い評価をいただき、代々、更新しつつ受け継がれているものです。

覚えることや臨機応変に対応しなければならないことも多く、最初のような仕事ができるか不安でした。ミスもたくさんしましたが、社員の方がいつもフォローしてくださったので安心して業務に取り組むことができました。

現在、報道部に所属しているアルバイト17人の内、16人が香大生です。放送関係に興味があり入社した人もいます。私もその内の一人で以前からアナウンサーとして活動したいと考えていました。けれども、アナウンサーが普段どのような仕事をしているのか、テレビで放送される以外のことは想像できません。実際に現場で共に働きその仕事を拝見したことで、具体的にイメージできるようになり、将来この業界で働くことが目標となりました。

目標としている方たちとの交流はモチベーションアップにつながりますし、社員の方と同じように責任あるポジションで、共に協力・工夫しながら取り組めることはお金には変えられない価値ある時間になっています。

この業務は放送とは関係がない所でも活かせる技術を学べると思っています。常に変化する大量の情報を、早く正確に多くの人に伝えるには、様々なものの見方や情報の真偽を見定める能力が必要になります。また伝えたい内容を、いかにわかりやすくまとめるかという技術も必要です。普段あまり知ることがない特殊な業務だからこそ、得られる知識や技術はかけがえのないものとなるのではないのでしょうか。

工学部材料創造工学科3年 田中慈大



本番放送直前のスタジオ。前面のモニター横で待機するフロアディレクター。



天気予報放送中、カメラの下でスタンバイ。



CM明け10秒カウント/左端の画面に映らない場所で、手でカウントしてアナウンサーに知らせます。



映像を再生するVTRオペレーター。

香大生16人  
地域の生放送番組で  
頑張っています



副調整室で放送中の音量やカメラの向きなどを調整。



和気あいあいとした報道部。



アルバイトのメンバーでミーティング。



バイト用ノート/その日あったことを記入します。

# EVENT

## OPEN CAMPUS SNAP

幸町キャンパス  
8/7(水)



## from International Office



### ちきゅう見聞録



ブルネイ・ダルサラーム  
教育学部中学校教育コース  
三村南津子  
2018年8月の4週間、  
ディスカバー・ブルネイ・プログラムに参加



毎日英語で講義を受け、20箇所以上のフィールドワークに大学のバスで行きました。キャンパス内にある5人部屋の寮で生活。パディたちが生活をサポートしてくれるので買い物もまったく困りませんでした。遊園地へも連れてってくれました!



ほぼ赤道直下のブルネイですが、実はぜんぜん暑くない!気温は33°Cくらい、からっとして過ごしやすい。日本の夏の方がよっぽど暑い!私は1ヶ月間うすい長袖を着て過ごしました。晴雨兼用の折りたたみ傘が便利で、園地へも連れてってくれました!



ブルネイでは約70%がイスラム教徒です。ムスリムの女性はいつも長袖・長ズボンとトウドンという髪を隠す布を着用しています。また毎週金曜はモスクでのお祈りの習慣があるので、学校の週休は金曜と日曜になります。

read more

